

科目名	邦楽器実習（笙） A, F	形態	実習	開講期	春・秋
担当教員	羽塚 知啓	単位	1	年次	1

＝授業科目の目標＝

普段あまり接する事のない雅楽ですが、その中でも笙の響きは複雑でありながら魅力的な音色を持っています。笙の音の配列を習得しながら、雅楽の簡単な歴史・知識に触れ、代表的な「平調 越殿楽」の静寂で優美な世界観を表現できる演奏を目標とします。

＝履修の条件と学習の方法＝

笙はとても繊細で扱いが難しい楽器です。吹く前と後には必ず温めなければなりません。

慌てた気持ちで楽器に接するのではなく、気持ちに余裕を持って楽器と向き合う姿勢が大切です。

学習方法は伝統的な口伝（唱歌）による伝承法でのお稽古を基本と致しますが、五線譜での表記を交えて、運指（手移り）と呼吸（気替）による笙、独特の音の変化を学びます。

＝授業内容＝

- 1回 笙に実際に触れて音を出してみます。（楽器の構え・指の形・竹名と音名）
- 2回 笙の基本的な合竹の形を習得します。①（乙・凡・乞・一）
- 3回 笙の基本的な合竹の形を習得します。②（十・下・一・工）
- 4回 音取りの説明と越殿楽の唱歌。（単音での演奏）
- 5回 越殿楽を合竹で手移りなしで全曲通してみます。
- 6回 合竹の手移り部分練習 ①（凡・一・乙）
- 7回 合竹の手移り部分練習 ②（乙・凡・十下）
- 8回 合竹の手移り部分練習 ③（十下・乙、後押の説明）
- 9回 合竹の手移り部分練習 ④（乙・一乞・一）
- 10回 合竹の手移り部分練習 ⑤（一・乙・十）
- 11回 合竹の手移り部分練習 ⑥（十・一乞・乙）
- 12回 合竹の手移り部分練習 ⑦（乙・下・乞）
- 13回 合竹の手移り部分練習 ⑧（一工・工一・乞）
- 14回 音取りと越殿楽全曲の演奏 ①（箏篳と合奏）
- 15回 音取りと越殿楽全曲の演奏 ②（箏篳と合奏）

＝成績評価の方法と評価の基準＝

「平調 越殿楽」の唱歌又は演奏と簡単な口頭試問。

授業への参加頻度も重視します。

＝テキスト（必携）＝

こちらで用意します。